

## 巻頭言



理工研究域長  
RSET 運営会議議長

**福森 義宏**

金沢大学理工研究域附属サステナブルエネルギー研究センター（略称：RSET）が平成23年4月に発足し、2年が経過しました。平成23年度末までにRSET専任教員が揃い、平成24年度からは、専任教員に加えて、兼任教員、協力教員の総勢40名が研究活動を本格的に開始したところでもあります。RSETが掲げる目標は、「地産地消対応型エネルギーに関わる研究開発により、グリーンイノベーションの核となる研究拠点を金沢大学に形成する」ことでもあります。すなわち、RSETでは、どこにでもある風力、太陽光、バイオマス、廃棄エネルギーから安心安全な持続可能なエネルギーを生産し、さらに、生産されたエネルギーを地域で消費するという21世紀の日本で求められている「一方通行型社会」ではなく「循環型社会」の構築に必要な研究開発を推進しています。この目標を達成するため、5つの部門、有機薄膜太陽電池部門、自然エネルギー活用部門、炭素循環技術部門、エネルギー・環境材料部門、バイオマス利用部門がそれぞれ独自に研究活動を活発に進めているところであります。また、各部門長が中心となるRSETセンター会議では、RSETの部門間の交流、組織としての活動および運営体制が協議されています。「3本の矢」ではありませんが、5つの部門が協同し、同じ目標を達成することの認識は、RSETの飛躍的な発展には必要不可欠です。

毎年刊行される「RSET研究活動報告」は、各部門の研究業績・外部資金獲得状況やアドバイザーボード報告が主となりますが、同報告書はRSETだけでなく金沢大学理工研究域のさらなる発展の糧となると確信しています。